

○計画期間:平成 29 年 4 月～平成 34 年 3 月(5 年 0 月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 30 年度終了時点(平成 31 年 3 月 31 日時点)の中心市街地の概況

熊本地震から約 3 年が経過する中、中心市街地の歩行者通行量は震災前よりも増加し、地価も上昇が続く等、中心市街地活性化基本計画に掲げる震災からの復興を後押しする取り組みの効果が発現してきている。

熊本城地区では、2018 年 3 月に策定した熊本城復旧基本計画に基づき、早期復旧を目指す天守閣をはじめとした石垣・建造物等の復旧が順調に進捗するとともに、2019 年 10 月からは震災から 3 年半ぶりとなる熊本城の特別公開を予定している。

通町筋地区においては、2017 年の商業施設 COCOSA 開業に続いて、熊本地震により被災した中心商店街内の商業ビルの建替えが進み、老舗店舗の再開に合わせて、新たな小売店舗等も開業している。また、年々増加しているインバウンド需要も相まって、ホテル建設やドラッグストア等の新規出店が相次ぐとともに、モノ消費からコト消費への需要に呼応する形で、フィットネスジム等の出店が多く見られるなど新たな街並みが形成されつつある。

桜町・花畑地区では、桜町再開発ビルが 2019 年 9 月頃に開業予定であり、建設工事が着実に進み、施設の外観も姿を現すなど開業に向けた機運が高まっている。また、桜町再開発ビルの前面に位置する（仮称）花畑広場は、バスターミナルの再開発ビルへの移行に伴い、シンボルプロムナード部分まで供用範囲を拡大して 2019 年内の暫定供用及び賑わい創出を図る予定であり、2020 年 1 月頃からは、将来のオープンスペース整備へ向けた本格的な工事にも着手することとしている。

新町・古町地区においては、震災に伴い地域の景観を形成する多くの町屋が被災したが、将来にわたって城下町の特色ある良好な街並みを継承していくための復旧保存に向けた支援の取り組みと合わせて、民間事業者による空きビルをゲストハウス等へリノベーション化する検討も進められている。

熊本駅周辺地区では、2018 年 3 月の JR 熊本駅周辺の在来線高架化に続き、2019 年 3 月に JR 熊本駅の新駅舎が完成するなど 2001 年度にスタートした JR 熊本駅周辺の在来線の連続立体交差事業は概ね完了した。また、JR 熊本駅高架下が開業した商業施設の「肥後よかモン市場」は、年間約 550 万人が訪れるなど連日賑わいをみせており、今後は、2020 年度の JR 熊本駅白川口（東口）駅前広場の完成、2021 年春の JR 熊本駅ビルの開業により、くまもとの玄関口として更なる賑わいの創出が期待されている。

このように、多様な中心市街地の活性化に向けた取り組みにより、震災からの復興と地域経済の成長を力強く後押しするとともに、2019 年の国際スポーツ大会の開催や 2020 年の熊本城特別見学通路の供用開始に伴い、国内外からの多くの観光客をお迎えする環境整備も整いつつあるなど、今後も更なる中心市街地の活性化が見込まれる。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度 1 月 1 日)

(中心市街地 区域)	平成 28 年度 (計画前年度)	平成 29 年度 (1 年目)	平成 30 年度 (2 年目)	令和元年度 (3 年目)	令和 2 年度 (4 年目)	令和 3 年度 (5 年目)
人口	36,792 人	37,013 人	37,132 人			
人口増減数	▲241 人	221 人	119 人			
自然増減数	▲60 人	▲18 人	▲62 人			
社会増減数	▲181 人	239 人	181 人			
転入者数	4,544 人	4,133 人	4,268 人			

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

熊本地震から 3 年が経過し、熊本市中心市街地ではビル・店舗・住宅等の復旧・復興が進み、創造的復興に向け順調に歩みを進めている。熊本市中心市街地活性化基本計画の目標の一つである「にぎわいあふれる城下町」の目標指標となっている「熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」の数値をみても、計画に沿った行政や民間の活発な取組みにより、熊本城や桜町・花畑周辺を訪れる人は多く目標値を大きく上回っている。また、目標の二項目目の「安心してずっと暮らしたいまち」の目標指標である「中心市街地の居住人口」についても、企業誘致に伴う雇用の増加やマンション等の建設に伴い、雇用者数や居住者数も着実に増加しており目標値を上回っている。加えて、目標の三項目目の「誰もが訪れてみたくなるまち」の目標指標「熊本市内の宿泊者数」については、今回の数値は目標値を下回っているが、中心市街地におけるホテル等の建設や、2019 年に予定されている国際スポーツ大会や熊本城の復旧に併せた段階的公開が計画されており、このような今後の事業展開を考えると、計画期間内における目標達成は可能であると思われる。これらの点からみても基本計画は概ね順調に推移していると評価している。

平成 30 年度は、計画期間の二年目であり、また、熊本地震から平成 31 年 4 月で 3 年を経て、熊本市中心市街地では、活性化に向け活発な動きを見せている。特に顕著なものとしては、桜町地区再開発事業であり、この秋の竣工に向け、事業は着実に進行している。またその後においても、桜町再開発地区に直接つながるシンボルプロムナード等整備事業も控えている。一方、熊本駅周辺においても、JR熊本駅ビル建設整備事業と熊本駅白川口（東口）駅前広場整備事業等、大型整備事業が進んでおり、今後も都市基盤整備が進むことになり、中心市街地の活性化に大きく寄与するものとなる。

また、経済界から提案し、平成 30 年 8 月に、くまもと都市戦略会議で協議した「熊本市中心市街地ランドデザイン 2050」については、課題や目指すべき姿を会議において共有し、今後 10 年間の取り組みと各々の役割を整理し、テーマを設けワーキンググループを立ち上げ検討・協議していくことになっている。今後は、産学官で連携し一体となって主な取組みを選定し、議論を深めるとともに、将来につながるような施策・プロジェクトが実現するよう協議会として関心を持って対応していきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
にぎわいあふれる城下町	熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数	1,921,762 人/年 (平成 28 年度) (2016 年度)	2,650,000 人/年 (平成 33 年度) (2021 年度)	3,191,009 人/年 (平成 30 年度) (2018 年度)	A	①	①
安心してずっと暮らしたいまち	中心市街地内の居住人口	36,604 人 (平成 28 年 10 月 1 日) (2016 年 10 月 1 日)	37,000 人 (平成 33 年 10 月 1 日) (2021 年 10 月 1 日)	37,061 人 (平成 30 年 10 月 1 日) (2018 年 10 月 1 日)	A	①	①
誰もが訪れてみたくなるまち	熊本市内の宿泊客数	2,637,637 人/年 (平成 27 年) (2015 年)	3,000,000 人/年 (平成 33 年) (2021 年)	2,800,000 人/年 (速報値) (平成 30 年) (2018 年)	B	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値達成、C : 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」については、熊本城の復旧過程を観覧する観光客の来城や(仮称)花畑広場での桜町・花畑周辺地区の賑わい創出により、目標値を上回った。

「中心市街地内の居住人口」については、企業立地件数の増加やUIJターン促進による雇用の拡大等により、目標値を上回った。

「熊本市内の宿泊客数」については、目標値は下回っているものの、震災前の基準値は上回ってきており、2019年には桜町地区の再開発ビル等の開業や3年半ぶりとなる熊本城の特別公開、2020年度にはシンボルプロムナード等の整備完了等により、更なる交流人口の大幅な増加が見込まれ、目標達成可能であると見込まれる。

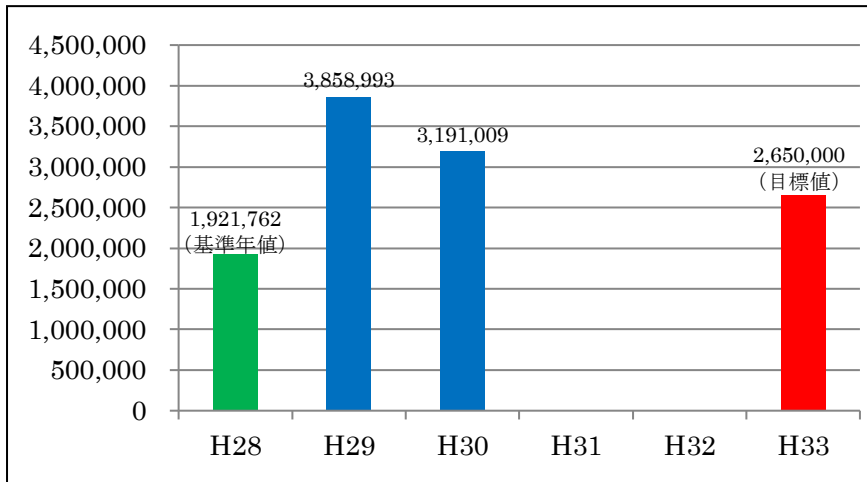
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H28	1,921,762 (基準年値)
H29	3,858,993
H30	3,191,009
H31	
H32	
H33	2,650,000 (目標値)

※調査方法：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者を計測

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城復旧整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】		
事業概要	復興のシンボルである「天守閣」をはじめ、石垣・建造物や便益施設等を含む熊本城全体の復旧を行う。		
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁）（H29年度～H33年度） 都市災害復旧事業費補助（国土交通省）（H29年度～H33年度） 防災・安全交付金（都市公園安全・安心対策事業）（国土交通省）（H29年度～H33年度）		
事業効果及び進捗状況	熊本城復旧基本計画を2018年3月に策定し、2019年10月の大天守外観復旧、2021年春頃の天守閣全体の完全復旧を目指すとともに、特別見学通路など観覧環境の整備にも取り組むこととしている。 【熊本城公園への入込数】		
	平成28年度（5～3月） （2016年度）（5～3月）	平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）
熊本城	1,328,619人	2,104,195人	1,697,915人
城彩苑	836,075人	1,213,204人	1,044,285人

事業の今後について	事業は、熊本城復旧基本計画に基づき順調に進捗しており、2019年10月の大天守外観復旧、2021年春頃の天守閣全体の完全復旧へ向けて、着実に事業を進めていく。
-----------	---

②. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）

事業実施期間	平成20年度～平成31年度【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H31年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～H31年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～H30年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度）
事業効果及び進捗状況	本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設の整備を行うとともに、広域バスターミナルや商業・交流機能等を備えた施設整備を行うことで、桜町・花畑周辺地区の賑わいの創出を図る。 【スケジュール（見込）】 平成30年度（2018年度） 建設工事・工事監理 平成31年度（2019年度） " "、施設完成
事業の今後について	事業は順調に進捗しており、2019年9月頃の開業等へ向けて、着実に事業を進めていく。

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成25年度～平成32年度【実施中】
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～H32年度）
事業効果及び進捗状況	暫定供用中の（仮称）花畑広場において、飲食・物販やステージイベント等の多様な利用が行われ、休日の稼働率は約7割に上り、約45万人が来場するなど桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。また、イベント開催時には中心商店街全体の歩行者通行量が増加するなど、来場者を中心商店街へと回遊させることができた。

	<p>【(仮称) 花畑広場来場者数】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 28 年度 (2016 年度)</td> <td>平成 29 年度 (2017 年度)</td> <td>平成 30 年度 (2018 年度)</td> </tr> <tr> <td>647,833 人</td> <td>541,594 人</td> <td>448,809 人</td> </tr> </table> <p>【スケジュール (見込)】</p> <p>平成 30 年度 (2018 年度) 基本設計・実施設計 平成 31 年度 (2019 年度) 実施設計・施設工事 平成 32 年度 (2020 年度) 施設工事・施設完成</p>	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	647,833 人	541,594 人	448,809 人
平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)					
647,833 人	541,594 人	448,809 人					
事業の今後について	事業は順調に進捗しており、2020 年 1 月頃の工事着工、2020 年度中の整備完了へ向けて、着実に事業を進めていく。						

④. 熊本城周遊バス運行事業 (熊本市)

事業実施期間	平成 1 8 年度～【実施中】						
事業概要	熊本駅を発着とし、熊本城を含む市内中心部等をつなぐ周遊バスを運行する。						
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 (総務省) (H29 年度～H33 年度)						
事業効果及び進捗状況	<p>熊本駅と熊本城・城彩苑を含む市内中心部等をつなぐことにより、中心市街地内の回遊性向上につながるとともに、熊本城へのアクセスも向上し、熊本城公園への入込数の拡大に寄与するものである。</p> <p>【バス乗車人数】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 28 年度 (2016 年度)</td> <td>平成 29 年度 (2017 年度)</td> <td>平成 30 年度 (2018 年度)</td> </tr> <tr> <td>68,958 人</td> <td>85,531 人</td> <td>83,417 人</td> </tr> </table>	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)	68,958 人	85,531 人	83,417 人
平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)					
68,958 人	85,531 人	83,417 人					
事業の今後について	事業は、観光客等の熊本駅から市内中心部等への円滑な交通手段として定着しており、引き続き事業を継続していく。						

⑤. 中心商店街地区魅力向上事業 (熊本市、民間事業者)

事業実施期間	平成 1 4 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街において賑わいイベント (STREET ART-PLEX KUMAMOTO) を年に数回開催する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金 (内閣府) (H29 年度～H31 年度) 中心市街地活性化ソフト事業 (総務省) (H32 年度～H33 年度)
事業効果及び進捗状況	中心商店街においてパフォーマンスイベントを開催することにより、質の高い中心商店街の賑わい形成を図るとともに、中心市街地内の回遊性向上を図る。

	【集客数】		
	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)
	33,637 人	29,263 人	35,654 人
事業の今後について	事業は、中心商店街の賑わい創出のコンテンツとして定着し、集客数も年々増加しており、引き続き事業を継続していく。		

●目標達成の見通し及び今後の対策

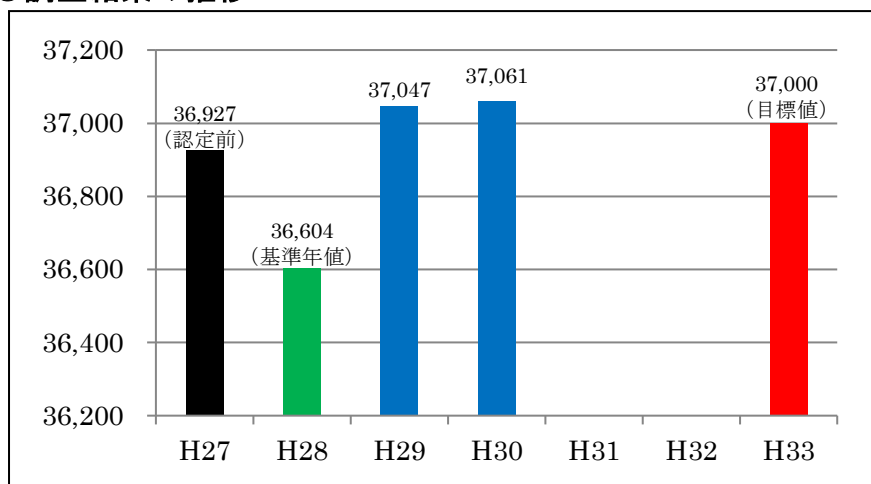
熊本城の復旧過程を観覧しようと今なお多くの観光客が熊本城公園に来城していることや、（仮称）花畑広場での桜町・花畑周辺地区の賑わい創出により、すでに目標値を上回っており、主要事業も概ね順調に進捗していることから目標達成は可能だと思われる。

2019年10月には3年半ぶりとなる熊本城の大天守外観復旧に伴う特別公開をはじめ、2020年春頃の特別見学通路の供用開始、2021年春頃の天守閣全体の復旧完了と内部公開を予定しており、更なる入込数の増加を図っていく。

また、桜町・花畑周辺地区においては、2019年9月頃の桜町再開発ビル等の開業をはじめ、2021年度以降の（仮称）花畑広場を含めたオープンスペースの本格運用による更なる賑わい創出に向けて、事業を着実に進めていく。

「中心市街地内の居住人口」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 76～P. 78 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H28	36,604 (基準年値)
H29	37,047
H30	37,061
H31	
H32	
H33	37,000 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：10月1日現在

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心市街地内7校区の住民基本台帳登録者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）〈再掲〉
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成20年度～平成31年度【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H31年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～H31年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～H31年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～H30年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29年度～H31年度）
事業効果及び進捗状況	本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設の整備を行うとともに、全159戸のマンションの整備を行うことで、更なる居住人口の増加を図る。 【スケジュール（見込）】 平成30年度（2018年度） 建設工事・工事監理 平成31年度（2019年度） " "、施設完成

事業の今後について	事業は順調に進捗しており、2019年9月頃の開業等へ向けて、着実に事業を進めていく。
-----------	--

③. 企業立地（誘致）促進事業（事業主体：熊本市）

事業実施期間	平成11年度～【実施中】								
事業概要	熊本市企業立地促進条例に基づき、立地企業に対し助成を行う。								
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～H33年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>2018年度の企業立地件数は17件と過去最高となり、製造業・情報関連産業等、様々な企業が進出している。また、立地企業の新規雇用予定者数は135人にのぼり、中心市街地の居住人口の増加に寄与している。</p> <p>【当事業を活用した企業の立地件数】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成28年度 (2016年度)</td> <td>平成29年度 (2017年度)</td> <td>平成30年度 (2018年度)</td> </tr> <tr> <td>11件</td> <td>16件</td> <td>17件</td> </tr> </table>			平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	11件	16件	17件
平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)							
11件	16件	17件							
事業の今後について	事業は、トップセールスや経済団体等との連携により、企業立地件数は年々増加しており、引き続き事業を継続していく。								

④. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】								
事業概要	中心商店街に隣接する熊本市現代美術館内に「街なか子育てひろば」を開設する。								
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（H29年度～H33年度）								
事業効果及び進捗状況	<p>街なかに、気軽に立ち寄れる子育て支援施設を設置することにより、子育て世代に優しい居住環境を提供し、ファミリー層のまちなか居住を促進する。</p> <p>【利用実績】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成28年度 (2016年度)</td> <td>平成29年度 (2017年度)</td> <td>平成30年度 (2018年度)</td> </tr> <tr> <td>26,880人</td> <td>20,661人</td> <td>15,644人</td> </tr> </table>			平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	26,880人	20,661人	15,644人
平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)							
26,880人	20,661人	15,644人							
事業の今後について	事業は、利用者数が減少傾向にあるものの、子育てしやすい居住環境のために必要であり、今後も利用促進に向けた周知を含め、引き続き事業を継続していく。								

⑤. ファッションの街くまもと魅力創出事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】		
事業概要	若者・女性への訴求力が強いファッションイベントを開催する。		
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～H31年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H32年度～H33年度）		
事業効果及び進捗状況	全国的にファッションの発信地として名を馳せた中心商店街において、ファッションイベントを開催することにより、地域ファッション関連産業の活性化を図るとともに、若年層の地元就職率の向上にもつなげていき、若者等のまちなか居住を促進する。		
	【イベント来場者数】		
	平成28年度 （2016年度）	平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）
事業の今後について	事業は、平成28年度から3回にわたって開催し、ファッション産業の振興へ向けたコンテンツとして定着しつつあり、集客数も年々増加しており、引き続き事業を継続していく。		

●目標達成の見通し及び今後の対策

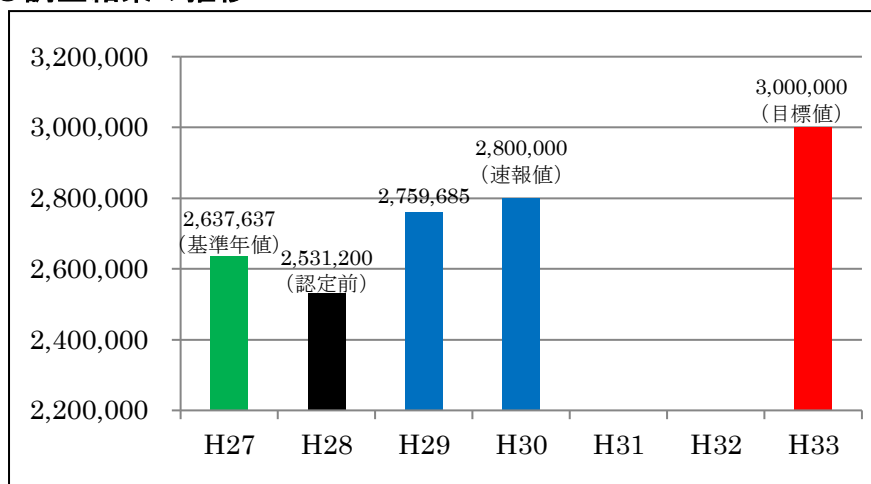
企業立地件数の増加やUIJターン促進による雇用の拡大等により、すでに目標値を上回っており、主要事業も概ね順調に進捗していることから目標達成は可能だと思われる。

今後も、引き続き本市のビジネス環境等の優位性や都市機能の集積などを活かした企業立地を積極的に促進し、企業立地件数を増加させていく。また、UIJターンの取り組みにより居住促進を図っていくとともに、桜町地区の再開発事業におけるマンション整備や子育て支援環境の提供等により、中心市街地の居住人口の増加を図っていく。

あわせて、桜町・花畑周辺地区や熊本駅周辺地区の再整備においては、震災の経験を踏まえた防災面からの機能強化を図り、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めていく。

「熊本市内の宿泊客数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/年
H27	2,637,637 (基準年値)
H28	2,531,200
H29	2,759,685
H30	2,800,000 (速報値)
H31	
H32	
H33	37,000 (目標値)

※調査方法：熊本市内の宿泊客数調査からの集計

※調査月：毎年1月～12月

※調査主体：熊本市

※調査対象：市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）＜再掲＞
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成20年度～平成31年度【実施中】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H31年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～H31年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～H31年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～H30年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29年度～H31年度）
事業効果及び進捗状況	本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設の整備を行うとともに、約200室のホテルの整備を行うことで、更なる交流人口の増加を図る。 【スケジュール（見込）】 平成30年度（2018年度） 建設工事・工事監理 平成31年度（2019年度） " "、施設完成

事業の今後について	事業は順調に進捗しており、2019年9月頃の開業等へ向けて、着実に事業を進めていく。
-----------	--

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成25年度～平成32年度【実施中】						
事業概要	熊本城と中心商店街との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや（仮称）花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。						
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～H32年度）						
事業効果及び進捗状況	<p>暫定供用中の（仮称）花畑広場において、飲食・物販やステージイベント等の多様な利用が行われ、休日の稼働率は約7割で、約45万人が来場するなど、桜町・花畑周辺地区の賑わいが創出された。</p> <p>また、イベント開催時には、中心商店街全体の歩行者通行量が増加するなど、来場者を中心商店街へと回遊させることができた。</p> <p>【（仮称）花畑広場来場者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成28年度 （2016年度）</th> <th>平成29年度 （2017年度）</th> <th>平成30年度 （2018年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>647,833人</td> <td>541,594人</td> <td>448,809人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成30年度（2018年度） 基本設計・実施設計 平成31年度（2019年度） 実施設計・施設工事 平成32年度（2020年度） 施設工事・施設完成</p>	平成28年度 （2016年度）	平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）	647,833人	541,594人	448,809人
平成28年度 （2016年度）	平成29年度 （2017年度）	平成30年度 （2018年度）					
647,833人	541,594人	448,809人					
事業の今後について	事業は順調に進捗しており、2020年1月頃の工事着工、2020年度中の整備完了へ向けて、着実に事業を進めていく。						

④. 熊本城マラソン事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】
事業概要	約14,000人のランナーによるマラソン大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年度～H33年度）
事業効果及び進捗状況	2年連続で県外等からのエントリー者数が1万人を超えるなど、事業の認知度向上に伴い、県外等からのエントリー者数も増加しており、宿泊客数の増加に寄与している。

	【エントリー者数】		
	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)
エントリー者数	25,428 人	26,722 人	25,552 人
うち県外	9,771 人 (38%)	10,742 人 (40%)	10,216 人 (40%)
事業の今後について	事業は、本市の主要なスポーツイベントとして定着し、引き続き事業を継続していく。		

⑤. M I C E 推進事業（熊本市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】		
事業概要	学会、大会などのコンベンション、コンサートや展示会等のイベント、企業研修やインセンティブトラベル等の誘致に取り組むとともに、受入環境の充実を図る。		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29 年度～H33 年度）		
事業効果及び進捗状況	積極的な誘致活動により、学会やイベント等の本市開催が決定し、2018 年度のコンベンション開催状況は、件数が 366 件、参加人数が 14 万人を超えるなど、宿泊者数の増加に寄与している。 【コンベンション開催状況】		
	平成 28 年度 (2016 年度)	平成 29 年度 (2017 年度)	平成 30 年度 (2018 年度)
件数	243 件	322 件	366 件
参加人数	89,906 人	105,560 人	140,913 人
事業の今後について	事業は、積極的な誘致活動により、コンベンション開催件数・参加人数ともに年々増加しており、引き続き事業を継続していく。		

●目標達成の見通し及び今後の対策

震災からの復旧・復興事業に伴う来熊者の宿泊に加え、熊本城の復旧過程公開や熊本城マラソン等の復興イベントの開催のほか、国内外観光客の誘致事業等の効果により、震災前の基準値は上回っている。

2019 年度には、本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設である桜町再開発ビルの開業をはじめ、大天守外観復旧に伴う熊本城特別公開や国内外から多くのランナーがエントリーする熊本城マラソンの開催により、多くの観光客等の来熊者が見込まれ、再開発ビルへのバンケットやホテル等の整備事業も併せて推進することにより、目標達成が可能であると見込まれる。

また、ラグビーワールドカップ等の国際スポーツイベントの開催を契機として、国内外へ向けたプロモーションや外国人観光客の受入環境の整備等を行っていくことにより、一過性に止まらない、更なる宿泊客増加を図っていく。